

サッポログループ サステナビリティ重点課題アクションプラン進捗（2020年）

【略称表記一覧】

サッポロホールディングス：SH ポッカサッポロフード&ビバレッジ：PS サッポロライオン：SLN サッポロ不動産開発：SRE

神州一味噌：SSI 恵比寿ガーデンプレイス：YGP サッポロファクトリー：SF

※子会社の記載がない項目は、サッポログループとしての取り組みです。

約束	重点課題	中長期目標（～2030年）	2020年までの進捗実績	2021年予定
『酒・食・飲』による潤いの提供	安全・安心の品質	<ul style="list-style-type: none"> 『酒』『食』『飲』の品質を高める企業文化醸成・人材の継続的育成に努め、国際標準である食品安全システムの活用を基本として、効果的な品質保証体制を構築する。 お客様のニーズに応じた適切な品質レベルを追求し、商品・サービスの品質トラブルゼロを目指す。 新技術を積極的に取り入れ、高レベルの品質をより効率的に実現していく。 	<ul style="list-style-type: none"> FSSC22000、ISO22000、ISO9001及びHACCP等による食品安全と品質保証体制の維持/向上。 －2020年は特にFSSC22000、ISO22000の認証取得範囲の拡大や、食品衛生法改正に伴うHACCP制度化対応を実施。 グループ各事業会社間での定期コミュニケーション継続、現場確認を実施。グループで対外発信を要する品質トラブルの発生はなかった。 表示チェックへのAI活用の検討を継続中（SB、PS）。表示確認業務のペーパーレス化・テレワーク対応実現（SB）。 	<ul style="list-style-type: none"> FSSC22000やHACCPの導入による予防型品質保証体制の効果的な構築、維持、運用。 「お客様の声」の迅速かつ確実な共有によるサステナビリティ経営の推進。 品質保証活動における生産性向上の検討。
	新価値創造	<ul style="list-style-type: none"> 未来の変化を先取りし、「おいしさ」と「健康」のニーズに応えるための研究開発を推進する。 強みを有する植物性素材の研究と加工技術を生かした商品を通じて、新たな顧客価値を提供する。 グループ内外の連携を強化し、多様な技術を効率的に獲得し、イノベーションを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビールテイスト商品として、新ジャンル「GOLD STAR」、尿酸値を下げるノンアルコールテイスト「うまみ搾り」などおいしさ、健康への新たな価値の商品を送り出している。（SB） 食品領域では、コア素材レモンを活かした商品開発や豆乳ヨーグルトの健康機能検証に取り組んでいる。（PS） 	<p>「おいしさ」と「健康」を軸に、お客様ニーズや生活様式の変化に対応した価値を提案できる研究開発、商品提案を継続的に実施。</p>
	適正飲酒啓発とビール文化継承	<ul style="list-style-type: none"> 「20歳未満飲酒」「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進する。 	<p>（社外）社会に対する適正飲酒の啓発活動を継続的に推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲酒防止用小冊子「知っておこう お酒のこと」を小中学校へ配布 大学や企業に対し、適正飲酒セミナーを開催 アルコール専用グラスを導入し、誤飲事故防止策を強化。誤飲事故0件・飲酒運転0件を達成。（SLN） <p>（社内）グループ全従業員における「適正飲酒に関する基本方針」徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ全社員向けに飲酒習慣スクリーニングテスト（AUDIT）を実施 	<p>引き続き、社会における不適切飲酒撲滅と適正飲酒啓発活動を推進。</p>
社会との共栄	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 従業員一人ひとりが、地域貢献活動に積極的に取り組むことで、地域の発展に貢献する。 商品、サービスを通じて地域とつながり、共に課題の解決に取り組む。 	<p>コロナ禍対応として、行政を通じ医療従事者への支援実施。</p> <p>自社拠点を中心としたこども食堂、社会福祉施設など地域へ製品の提供を実施。</p> <p>令和2年7月豪雨被害に対し支援実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本県、大分県、日田市へ支援金寄付、また従業員募金をあわせて実施し寄付。 熊本県、日田市へ飲料水、スープの物資支援実施 <p>東北復興支援「東北未来プロジェクト」に伴う支援の実施。</p>	<p>引き続き、グループ会社の各拠点において、地域の課題解決につながる具体的な取り組みを実施。</p>
	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 行政やパートナーと協働し、豊かな「まちづくり」を推進することで、地域の魅力向上に貢献する。（SRE、SLN） 	<ul style="list-style-type: none"> 連携協定締結数：62件（2020年12月末時点） 被災地の食材を取り入れ各地の食材のおいしさを発信。（SLN） 保有施設を開放。その他、近隣地域の行事に協力。（SRE） コロナ禍の飲食店支援として渋谷区テイクアウト・デリバリーMapへ協賛。 	<p>【YGP】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域SNSアプリ「ピアッツァ」と連携した地域コミュニティの活性化。 地域のパートナーと協働した恵比寿文化祭の開催。 渋谷区全体でのまちなかイベント(おとなりサンデー)への参加。 <p>【SF】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年実施のエリア内居住者アンケートをもとにエリア内居住者を対象にしたサービス企画の立案。 創成イーストエリアの活性化に向けた取り組み（イベントや環境整備等）を札幌市、町内会、近隣小中学校PTA、企業と検討、実施。
	持続可能な調達	<p>主要調達先のうち、サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合を90%以上とする。（SB、PS）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主要サプライヤー様に対して「マーケティング方針説明会」等で、グループ調達基本方針、サステナビリティ調達の説明と要請実施 CSR調達アンケートを主要サプライヤー様に対して実施し、サステナビリティ調達の実施状況を確認。主要調達先のうち、サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合は89%となった。 サプライヤー満足度調査を実施し、サッポログループ調達基本方針の浸透度と「公正・公平」な調達活動等に関する評価実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「グループ調達基本方針」及び「サステナビリティ調達」に関する理解と協力要請の実施。 サプライヤー様におけるサステナビリティ調達状況の確認実施（CSR調達アンケート実施） 「公正・公平」な調達活動の検証 サプライヤー満足度調査の実施と抽出課題への取り組み。

約束	重点課題	中長期目標（～2030年）	2020年までの進捗実績	2021年予定
環境保全	地球温暖化防止	・自社拠点でのCO ₂ 排出量を2013年比で20%削減する。（2013年時事業会社）	・自社拠点CO ₂ 排出量削減率11%達成（2013年比）：2019.4～2020.3 ・TCFDシナリオ分析は、ビール原料農産物の収量に関する分析を終了し、リスク・機会を特定。	・省エネルギーの推進。CO ₂ 排出量前年比▲1.0%。 ・酒類事業のシナリオ分析などTCFDに基づく情報開示。
		・自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO ₂ 排出量削減に努める。	スコープ3について4事業会社の2019年度（2019.4～2020.3）算定を実施。	主要事業会社におけるスコープ3算定とその情報開示。
	3Rの推進	<水資源> ・生産工場における水使用総量を2013年比で10%削減する。（SB、PS）	生産工場における水使用総量削減率7.7%達成（2013年比）：2019.4～2020.3（SB、PS）	・水の効率的な使用。 －国内自社工場水使用量 2013年比 ▲11.7%（SB） －国内自社工場水使用量原単位 前年比▲0.5%（PS）
		・グローバルでの水リスクへの対策を実施し、水資源保全に努める。	国内外の生産拠点における水リスクの調査を実施。2021年に開示を予定。	
		<容器包装> ・容器包装のリデュース（軽量化・簡素化）を維持・拡大する。 ・再生可能材料の利用を拡大し、容器包装材料の枯渇性資源依存を低減する。 ・社外との連携・協力を深め、持続可能な循環型社会の構築に貢献する。	酒類・食品飲料製品容器包装における、リデュース・循環型社会対応素材への転換拡大施策例（2020年実績） 【SB】 －軽量アルミ缶・缶蓋の展開拡大 －ビール6缶紙包材へのFSC®森林認証表示開始 【PS】 －ショートフラップ段ボール使用拡大（重量比▲約115トン） －軽量樹脂キャップの使用拡大（約30百万個／重量比▲約15トン） 【SSI】 －即席お徳用みそ汁の内包プラスチックトレイを廃止（プラスチック重量比▲約30%）	・酒類・食品飲料製品容器包装における、リデュース施策の拡大。 ・酒類・食品飲料製品容器包装における、循環型社会対応素材への転換拡大。 ・資源循環に関わる業界団体との連携推進。 －清涼飲料におけるPET素材のボトルtoボトル推進への日本国内業界団体を通じた貢献。
		<廃棄物> ・外食店舗、食品流通における食品ロス削減に努める。（国内事業会社）	ビールテイスト製品の賞味期限の月表示への切り替え実施。（SB）	
		・2024年までに食品廃棄物の再生利用等実施率50%を実現・継続する。（SLN）	食品廃棄物の再生利用等実施率：43.3%（2019.4～2020.3）（SLN）	引き続き、外食店舗、食品流通における食品ロス削減に努める。
		・廃棄物再資源化率の向上に努め、主要工場では100%を実現する。（SB、PS）	主要12工場達成を目指す中、1工場のみ未達。	主要工場における廃棄物再資源化率100%を実現（SB、PS）
	自然との共生	・気候変動に対応可能な特性を持つ大麦・ホップを開発する。（SB）	評価法の導入など着実に進捗している。	（大麦） ・実用的な赤かび病耐性、穂発芽耐性を持つ母本の選抜。 ・広い環境適応性を育種目標とした集団養成継続。 （ホップ） ・気候変動に強いホップ遺伝資源の選抜へ向けた根系評価法の確立。 ・新規根系評価法による育成系統評価。
		・YGP、SFを中心に、近隣生活者に自然と共生する暮らしを提供する。（SRE）	・緑地を含めた敷地空間の適切な管理を実施し、公開。（YGP） ・従来の花壇プランターに加え、サッポロ広場に農園を新設。（YGP） ・地元NPO法人与共に野菜等の植付を実施。収穫した野菜の一部を地域の団体に寄付。（SRE）	【YGP】 ・都市のオアシス認定サイトとして緑地空間の維持・公開（YGP） ・サッポロ広場での都市農（YEBISU GARDEN FARM）を通じ、季節の野菜の栽培体験の提供、収穫した野菜を使った食イベント（食育）の実施 【SF】 ・北海道の各市町村が行っている森林資源保全の取り組み、木育活動への参加（近隣生活者を巻き込みながら） ・前年のジャンボクリスマスツリーを素材として使用する木育ワークショップの継続実施 ・社員参加によるSF周辺植樹拵花植え／除草活動の実施

約束	重点課題	中長期目標（～2030年）	2020年までの進捗実績	2021年予定
個性かがやく 人財の輩出	健康経営	・従業員および家族に健康への意識向上・行動変容を促し、健康維持増進につなげる。	【SH、SB、PS、SLN、SRE】 ・高ストレス者割合 8% (ストレスチェック・従業員意識調査) ・生活習慣病健診受診率 73% (40歳以上) ・喫煙率 26.4%	【SH、SB、PS、SLN、SRE】 ・高ストレス者割合を前年(8%)より改善させる。 (ストレスチェック・従業員意識調査) ・生活習慣病健診受診率を100%に近づける。 ・喫煙率を12%に近づける。
	ダイバーシティ・人権	・従業員一人ひとりがダイバーシティへの理解をより深め、誰もが生き生きと働ける環境を目指す。 ・女性管理職・女性役員比率を向上させる。(全社員に占める女性比率相当)	【SH、SB、PS、SLN、SRE】 ・ダイバーシティ&インクルージョン・チーム力 3.0ポイント (ストレスチェック・従業員意識調査) ・女性管理職比率 2020年4.2%	【SH、SB、PS、SLN、SRE】 ・ダイバーシティ&インクルージョン・チーム力のポイントを前年(3.0ポイント)より向上させる。(ストレスチェック・従業員意識調査) ・女性管理職比率4.8%
	人財開発・育成	・「自分のキャリアは自分で切り拓く」従業員が活躍できる体制を整える。 ・がん治療中・介護中の社員が働き続けられる環境整備を行う。 ・障がい者雇用率3%を達成する。	・高エンゲージメント者割合 19% (ストレスチェック・従業員意識調査) (SH、SB、PS、SLN、SRE) ・障がい者雇用比率 2.3% (2020年6月) (SH、SB)	・高エンゲージメント者割合を前年(19%)より向上させる。 (ストレスチェック・従業員意識調査) (SH、SB、PS、SLN、SRE) ・障がい者雇用率 2.4% (SH、SB)

※一部データについては、[ESGデータ集](#)でも実績を開示しております。